



ほし組だより

臼井幼稚園

令和6年12月16日
発行

今年は急に真冬が到来したまま居座り続けています。インフルエンザもそろそろ東京で流行し始め、近隣の小学校では学級閉鎖との情報が。せっかくの冬休みに罹患しないよう、手洗いうがいの徹底とあいうべ体操をご家庭でもぜひ食事前に実践してください。。

<お詫び>

2年連続、この時期に、こんなお詫びを書くのは何の因果かと思いますが、にじ組の担任が体調を崩し、少し前から休んでいます。12月中は休職とし、1月からの復帰を見込んでいます。2学期はあと僅かですが、にじ組は伊東恵理がしっかり守ります。3学期の復帰が難しい可能性を加味して、発表会のピアノの練習もはじめていますので、ご安心ください。

<バザーの純利益のご報告>

純利益は298,456円でした。
この収益で各クラスに新しいブロックを197,340円で購入しました。残りは幼稚園で子ども達のために有効に使わせていただきます。バザーへのご寄付、SOSの皆さまのご協力、改めて感謝申し上げます。ありがとうございました。

<エジソン箸の使用を控えてください>

幼稚園にエジソン箸を持ってきて使っているお子さんもちらほらいますが、エジソン箸やその他の補助箸はあくまでもお箸を使い始める子ども（2,3歳まで）のための補助具です。正しい持ち方ができるようにはなりません。
臼井幼稚園では思い切ってエジソン箸を控えてもらうよう、保護者の皆さまにお願いします。子どもは大きくなるにつれて手先が器用になり、細かい作業もできるようになっていきます。使いやすいお箸のおすすめは、六角形のお箸です。
使っていることが当たり前になっていることやものをこの機会に見直してみただけませんか。

先日、2024年4月長野県佐久市に開校したさやか星小学校を視察に行ってきました。この小学校は行動分析学をもとにして、デジタルツールを駆使した新しい教育を実践する小学校です。創設者は

URAPAGEで時々本のご紹介をしている奥田健次先生です。

「世界でひとつだけの子育ての教科書」

「子育ての本当の原理原則」などの著者です。

「本当に子ども達のためになる教育ってなんだろう？ひとつのものをさして子ども達をジャッジせず、それぞれの強みを伸ばすことに注力することだ」教育の「あたりまえ」を変えていく、新しいチャレンジをしている学校です。さやか星小学校の掲げる“マルチものさし”の考え方があたりまえでない今の教育現場を、私自身も疑問に思い、幼稚園を卒園してからの子ども達の行く末を案じているところです。そして臼井幼稚園で行なっている教育が“マルチものさし”であるかどうか？子ども一人ひとりの価値を引き出し、お互いを尊重しあい、自由な心で生きていけるように、教育できているか？確認したかったのです。さやか星小学校には教育理念に賛同して移住してこられたご家族が半数ほど来ているそうです。こういう特色のある学校が、日本の教育のスタンダードになっていけばいいのに！と思いました。そして、臼井幼稚園の教育は間違っていない！と確信しました。

よいお年をお迎えください。

園長 志田裕美子

<年長組今月の目標>

健康・・・意欲を持って縄跳びに取り組む。
人間関係・・・小学校への期待を持ちつつ、けじめのついた行動がとれる。
環境・・・四季の移り変わりを自ら発見し、気づく。
言葉・・・相手の気持ちを考えた上での発見ができる。
造形・・・三方、新年会おもちゃ
音楽・・・
<1月>「友達讃歌」
<1,2月>「ポンタものがたり」「ありがとう拍手を」「作品作りの歌」「発表会の合唱曲」
<2,3月>「うれしいひなまつり（3/3まで）」「夢を探しにでかけよう」「みんなの未来」「未来のなかで会おうよ」「よろこびの歌」「涙と勝利と」

<2ページへ続きます>

＜担任から今月のメッセージ＞

先日のミニミニ運動会ではたくさんの応援と参加のご協力をありがとうございました。保護者の皆様のクラス対抗戦では見事1位を勝ち取っていただき、飛び上がって喜びみんなが印象的でした。今までの流れだと大体、ああ～～～……。と私が投げる玉が先になくなる確率が高かったのも、まさか勝っているとは……実はちょっぴり油断していました……どうやってああ～って転がろうか考えつつ投げていることをお詫びいたします……すみません。エヘヘ…。最高の喜びをありがとうございました。

縄跳び表をスタートすると、毎日「特訓してくるね」とチャレンジする子が増えました。

数えた時に、③←このように○がついている場合は、1回ずつ止まってしまう跳び方です。止まってしまう跳び方はいくらでも回数を続けられるので、リズム良く跳べるようになるまでは10までしか塗れず、10以上は○が取れる跳び方にならないと塗ったり、テープをもらったりできないことを最初に伝えています。また、縄跳びはやればやっただけ上手くなるよと話しましたが、まだ跳べない子はどんどん跳べる子を目の当たりにしたことで、跳べないことが恥ずかしいと思い込んで、チャレンジを渋る子もいたので、人と比較せずに自分のペースで目標を作り、少しずつ達成していくことが大切だと伝えました。冬休みに体力作りも兼ねてお家で特訓していただけたら幸いです。おすすめは1回旋2跳躍跳びです！

発表会の作品をいくつか読んでいくね！と発表数日前から話しを始めましたが、今日の作品はね……と話そうとすると「シンカリオンがいい」「ゴジラがいい」「プリキュアがいいな」とどんどん意見が出ました。壁面などいつもは意見を言わないみんながあれは？これは？と言ってくれるのはものすごく嬉しかったのですが、敵を倒す話は小さい組さんができちゃうからなああとやんわり断ると、どの話も難しいよ！と難しさをアピールし続ける強者もいて、こちらからの提案に進むまで時間が掛かってしまいました。

今日のお話は……助けて～アンパンマン～！！と叫ぶと「えええー絶対やだー！！！！」と冗談だと分かっているので怒りつつも大爆笑しながら「もっと難しい話にして」としっかり年長らしさを出していました。

うまく時間が作れず、発表前日は2本立てで作品を読んだのですが、3匹のこぶたで盛り上がった後に、ごんぎつねを読んだので気持ちの落差が激しくて誰も何も発さない静かな時間が流れました。読んでいる最中は真剣に聞いてくれるみんなの姿と話の内容に突然グッと来てしまって、涙が出ちゃうかもーと、堪えるのに必死でした。あまりにも悲しい最後なので、「泣きそうになった」「悲しい」としんみりしすぎて、やってみたいと言わないのではないかと心配になったのですが、半数以上の子がごんぎつねがやりたいと手を挙げてくれてホッとしました。

毎日、「劇できる？」と聞き、他の活動が……と伝えると「ええー……」と大ブーイングで、早く準備できれば……〇〇が終われば……あれができれば……など条件を言うと「急いでやろう」とみんなで力を合わせているので、嬉しく思います。今はまだモジモジしたり、周りの友達を気にしたり演技に集中できていないのですが、1人ひとりが自信を持って取り組めるようにサポートしながら素敵な作品に仕上げたいと思います。

3学期が始まったら卒園まであっという間です。不安なこともあるかもしれませんが、小学校への期待を高めながら、ほし組で過ごせる僅かな時間を全員で笑い合える日々にしていきたいです。

山口 朱美

